

自由でありながら昔の良いものを活かしていく、  
そのバランスを大切にしたいですね。



龍谷大学 非常勤講師

音羽 レベッカさん

■日本に興味を持ったきっかけは？

私はアメリカ生まれで、12歳の時家族でオーストラリアに移住しました。そこで入った中学校で、新しく日本語のコースが出来たので入ってみませんかと誘われたのがきっかけで、日本語の勉強を始めました。するとだんだん文化などにも興味を持つようになり、大学でも日本語と日本文化を専攻しました。そして、日本の仏教について学ぶため留学しました。

■夫の利郎さんとは、どのように知り合われたのですか。

彼はオーストラリアに興味を持っていて、オーストラリアを一人で旅したり、神戸日豪協会という団体に活動したりしていました。その協会が縁でお互い学生同士で知り合い、卒業してすぐ結婚しました。彼は結婚後も勉強を続け、博士号を取りました。

結婚後3年間は京都で、次の2年間はアメリカで過ごし、その後夫の実家の日野町で住むことになりました。

■お住まいの家は、とても古いそうですね。日本人でも、田舎での生活環境や習慣の違いで苦勞することが多いのですが、伝統的な日本の暮らしに抵抗はありませんでしたか。

築350年で、江戸時代の初めに建てられたものと聞いています。アメリカやオーストラリアなど歴史の浅い国から来た私にとっては、このような古い建物は魅力的でした。友達からは「博物館に住んでいるみたいね」と言われています。

当時私は大学を出たばかりで分からないことばかりでした。「長男の嫁は実家に住むものだ」と言われたので「そういうものなのだ」と思って一緒に暮らし始めたのです。ですから難しいところはありましたが、この家が大好きだったので、生活を続けることが出来ました。仏教を勉強していましたから「これは私の修行だな」と思うようにしてい

ました。とにかく私にとっては何もかもが新しく学ぶことだったので、毎日が勉強でしたね。私と同世代の日本の女性は西洋的なものへ向かって行っている時に、私は日本的なものへ向かっていました。

■ストレスも多かったと思いますが、心の支えになったのは何ですか？

友達に会うために出かけるというのはなかなか出来ませんでした。そんな中で「日本人の外国人妻の会(AFWJ)」に出会い、役員を務めるようになると「役員会があるので出かけます」と言えるようになりました。AFWJはそういう意味で、居心地の良い場所になりましたね。他にも小学校の英語教師の職を見つけて、外に出るようにしました。その後龍谷大学の非常勤講師の仕事を見つけて、これは今も続けています。

■アメリカやオーストラリアと比べて、日本はここが違うなと感じていることはありますか。

アメリカやオーストラリアでは、駅やバス停などで居合わせた人やお店の人が、ちょっとしたことで声を掛けて個人的な会話をするのですが、日本では店員はテーブルコーダーをかけているような感じで人としてのふれあいあまり出来ません。内輪の人とは親しくするけれども、外の人には心を閉ざすという傾向がありますね。そこに戸惑いを感じることはありました。

■二人の息子さんも独立された今、一つの転機ではないかと思うのですが、レベッカさんにとって、今はどのような時ですか。

子育てに夢中になっているときは、誰々のお嫁さん、誰々のお母さん、と呼ばれることが多かったのです。ですから今のこの時は、本当は自分はどういう者なのか、自分を見つける良い機会だと思っています。興味を持っていることや趣味はたくさんあるので、どう時間をや

●プロフィール●

アメリカで生まれ、12歳のとき家族でオーストラリアへ移住。大学時代に留学生として来日。今の夫と知り合い卒業と同時に結婚、1978年から日本での生活を始める。日野町の旧家である夫の実家へ入り、伝統的な暮らしを引き継いできた。2010年、日本での生活について綴ったエッセイ集「AT HOME IN JAPAN」を出版。4匹の猫とともに築350年の旧家を守りつつ、小説を書く、絵画制作、野菜づくりなど多彩な趣味を楽しんでいる。

りくりしようかと思っているくらいです。2010年に「AT HOME IN JAPAN」というエッセイ集を出版しましたが、これもその一つです。日本の生活や文化について、これまでたくさんインプットしてきましたから、今はアウトプットする時です。エッセイの他に短編小説も書いています。また水彩画も描いています。特に頭の中に思い描いたものを絵にすることが好きです。



▲2010年に出版されたエッセイ集「AT HOME IN JAPAN」。日野の旧家で学んだ日本の伝統的な暮らしや風習を、自筆のイラストとともに紹介している。

■伝統的な暮らしを守ってこれた立場から、日本人たちに今伝えたいことはありますか。

昔の生活はきつくて大変なことが多かったと思いますが、明治、大正、昭和の時代の皆さんは、その分自分の人生をじっくりと感じる事が出来たのではないのでしょうか。伝統的な家の中には、そういう雰囲気が残っています。ですから、難しいことかもしれませんが、悪いところと一緒に良いところまで捨ててしまわず、自由でありながら昔の良いものを活かしていく、そのバランスを大切にしたいと思っています。